

まちなか来街者調査  
概要版

令和4年11月

姫路市

# — 目 次 —

|                       | 頁 |
|-----------------------|---|
| I. 調査の概要              | 1 |
| 1. 調査目的               | 1 |
| 2. 調査日時               | 1 |
| 3. 調査場所               | 1 |
| 4. 調査対象               | 1 |
| 5. 調査方法               | 1 |
| II. 調査結果              | 2 |
| 1. 居住地                | 2 |
| 2. 中心市街地までの交通手段       | 3 |
| 3. 来街目的               | 3 |
| 4. 立ち寄り先              | 4 |
| 5. 滞在時間               | 4 |
| 6. 求められる店舗・施設・サービス・機能 | 5 |

# I. 調査の概要

## 1. 調査目的

本業務は、姫路市中心市街地における、来街者の回遊状況等を把握する調査を実施し、令和元年に実施した調査結果との比較を行うことにより現状を分析した。

また、調査・分析結果を中心市街地活性化に向けた、今後の施策検討等の基礎資料として活用することを目的とする。

## 2. 調査日時

令和4年10月23日（日） 10時～17時 天気：晴れ

令和4年10月24日（月） 10時～17時 天気：晴れ

## 3. 調査場所

中心市街地商店街内の3地点（次頁、調査場所 参照）

- ・地点A 姫路駅北にぎわい交流広場周辺
- ・地点B 姫路駅前商店街入口
- ・地点C 旧ヤマトヤシキ姫路店周辺（みゆき通り、二階町、西二階町等）

## 4. 調査対象

中心市街地を訪れる15歳以上の男女（計361サンプル）

単位：人

|     | 合計  | 男性  | 女性  |
|-----|-----|-----|-----|
| 日曜日 | 171 | 89  | 82  |
| 月曜日 | 190 | 82  | 108 |
| 計   | 361 | 171 | 190 |

## 5. 調査方法

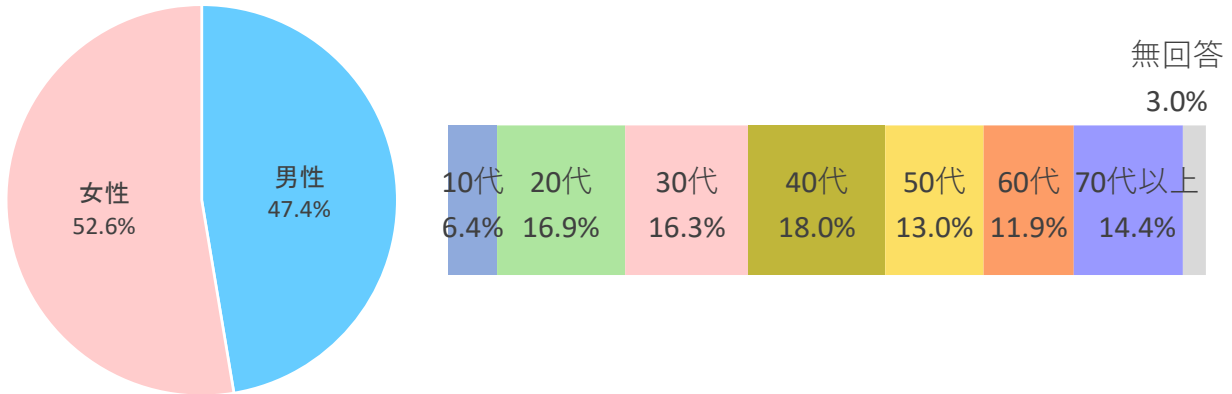
調査員によるアンケート形式のヒアリング（聞き取り）調査。

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 居住地

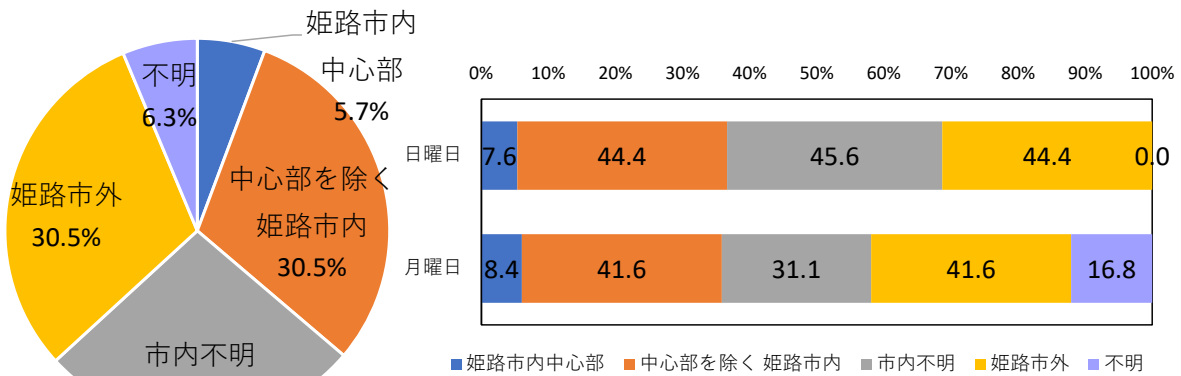
#### (1) 性別・年代

- ・男女比は、ほぼ半数ずつとなっている。
- ・年代は、各年齢層から回答が得られており、40代の割合が約2割と最も多い。



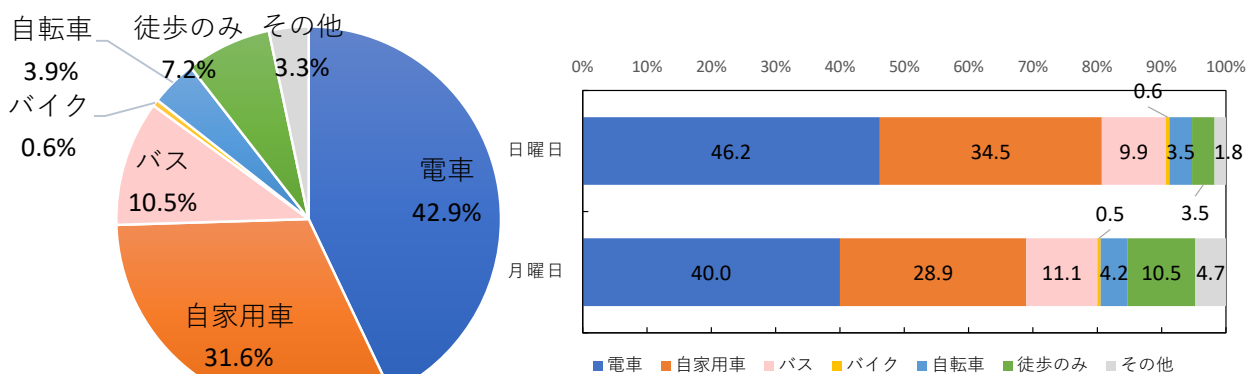
#### (2) 居住地

- ・回答者の居住地は「中心部を除く姫路市内」が4割強、「姫路市外」が約4割と多い。
- ・曜日別に見ると、月曜日は日曜日に比べて市内居住者の割合が高い。



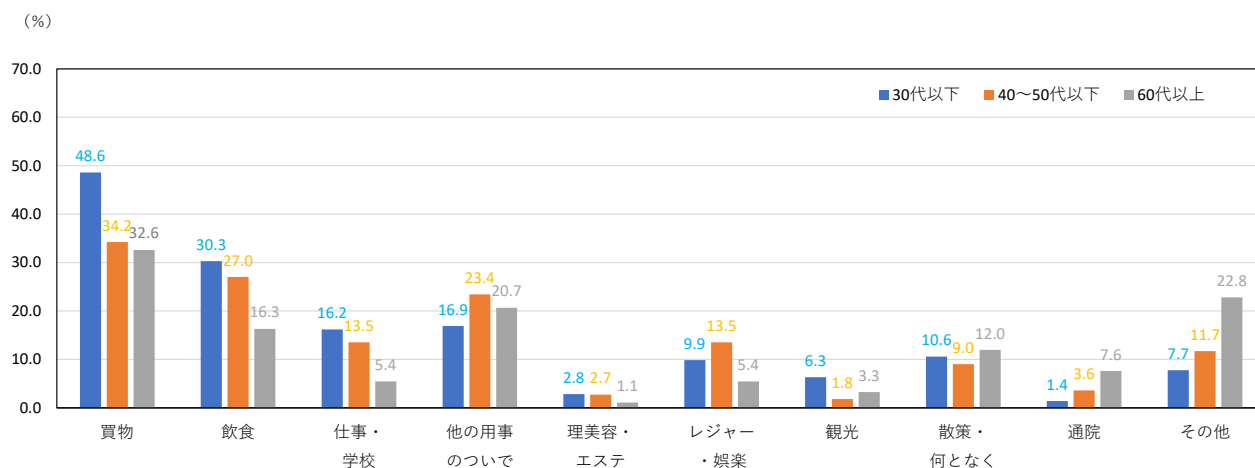
## 2. 中心市街地までの交通手段

- ・中心市街地までの交通手段で最後に利用したものは、電車が4割強で最も多く、次いで自家用車が約3割、バスが約1割となっている。
- ・曜日別に見ても、日曜日、月曜日ともに、電車、自家用車、バスの利用が多くなっており、日曜日の方が電車や自家用車の利用割合が高くなっている。
- ・月曜日は、徒歩のみの割合も約1割となっており、日曜日に比べて利用割合が高い。



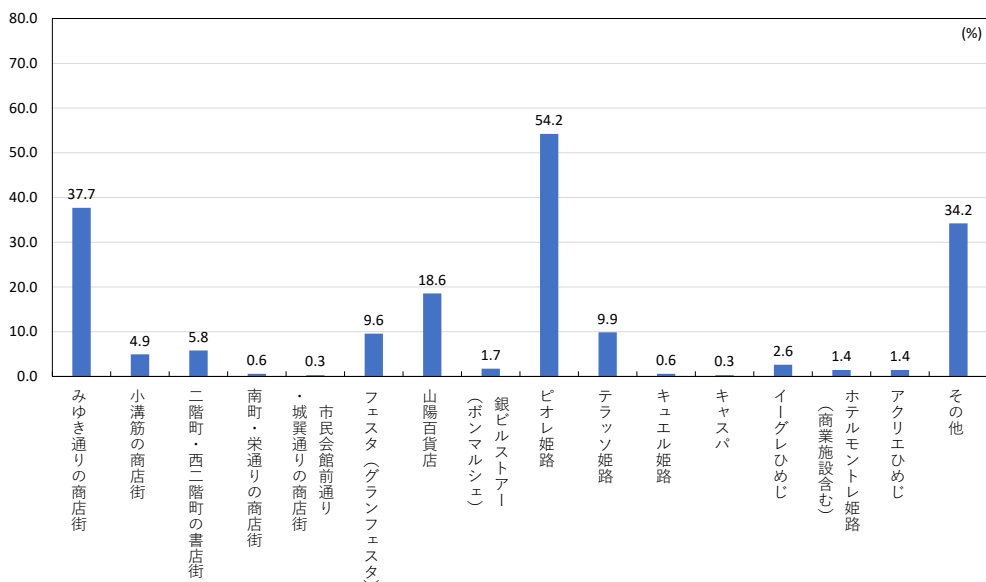
## 3. 来街目的

- ・中心市街地への来街目的は、全体で見ると、「買物」の割合が最も高く、次いで「飲食」が多い。
- ・「60代以上」では、「飲食」約16%より「他の用事のついで」の方が約21%と割合が高い。



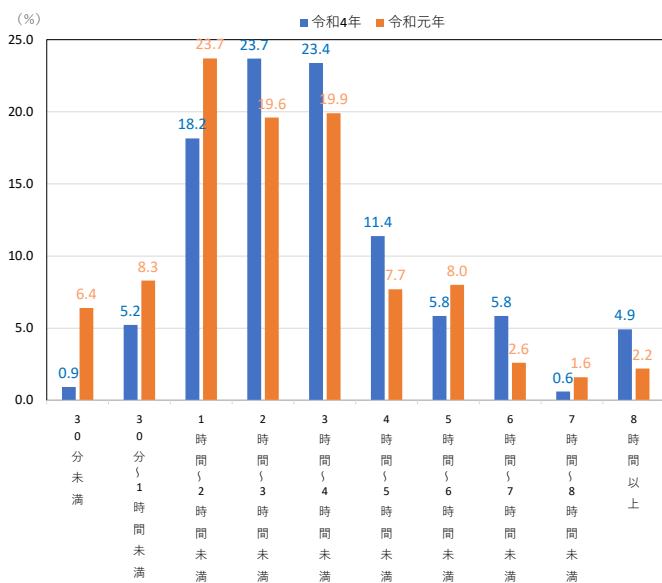
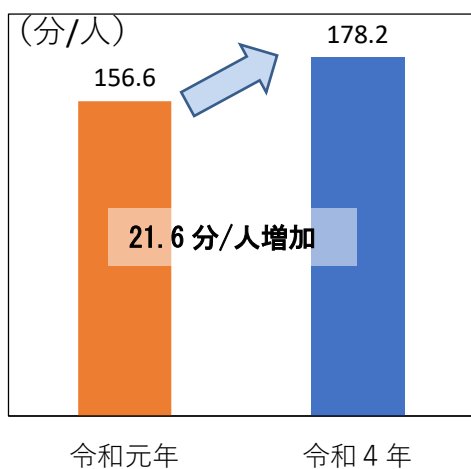
#### 4. 立ち寄り先

- ・予定も含めた立ち寄り先は、「ピオレ姫路」が最も多く、回答者の半数以上が利用しており、次いで「みゆき通りの商店街」が約4割、「山陽百貨店」が約2割となっている。
- ・「南町・栄通りの商店街」「市民会館前通り・城巽通りの商店街」「キューエル姫路」「キャスパ」を利用する回答者はそれぞれ1%未満と少ない。



#### 5. 滞在時間

- ・中心市街地に滞在する時間は、1人当たり平均178.2分となっており、令和元年より約21.6分増加している。
- ・滞在時間は、令和元年は1時間～2時間未満が最も多かったが、令和4年は、2～3時間未満、3～4時間未満が、それぞれ全体の2割強と多くなるなど、中心市街地での滞在時間が増加している。



## 6. 求められる店舗・施設・サービス・機能

- ・商店街で充足させるべき店舗・施設・サービスは、全体で見ると「娯楽・レジャー施設」「飲食店」がそれぞれ4割程度と多く、次いで「食料品店」が約2割となっている。
- ・令和元年と比較すると、「文具・本など文化用品店」「衣類品店」の割合が減少し、「娯楽・レジャー施設」「飲食店」の割合が増加している。

